

## 地域の教育力の活用を図る教育課程の工夫に向けて ～教頭会として各学校の教育課程に関わるためにできること～

提言者：新発田市・北蒲原郡小中学校教頭会 新発田市立二葉小学校 土田 利康

### 1 提言の趣旨

学校と地域が連携し・協働し、地域コミュニティ全体で教育課程を推し進めていくことが求められている。土そのためには、学校の教育課程に、地域の人的、物的資源が位置付けられなければならない。そこで、教頭会として各校の地域連携支援のために、以下の3つの新たな組織を立ち上げ、取組を共有し、充実した特色ある教育活動の実現を図った。

- (1)【人材リスト作成部】市の人材リストの作成
- (2)【情報交換担当部】地域の教育力の活用に向けた情報交換の実施
- (3)【専門家招聘担当部】専門家。専門機関とのつながり

その結果、多くの学校が人材リストを活用し、地域との連携・協働した実践を取り入れ、教育課程の自校化ができた。また、多忙化解消にも有効であった。一方で、同一中学校区において、義務教育9か年の教育課程の編成、実践に向け、教頭会としてどう支援を行えばよいかというのが今後の課題である。

### 2 研究協議

#### (1) 全体協議から

- ① 各校で、取り組みたい教育活動があるが、そのデータや情報がない場合に、本実践の情報の活用をもとに、学校の実態に合った計画が立てられ、またその新たな実践の蓄積が更に有効利用されることにつながる。
- ② 講師への謝金については、現段階では各校の判断である。人材を共有していくうえで、ある程度の共通化が必要である。

#### (2) グループ別協議から

学校に対する地域からの要望をどのように教育課程に盛り込んでいくと効果的であるのか。

- ① 市全体の共有化の前に、近隣の中学校区における地域の特色を生かした人的、物的資源を挙げ、共有化を図ることでより充実、有効な教育活動が見出せる。特に、統合を控えている地域には大切な視点である。

- ② 地域の人的、物的資源がすべて教育課程に位置づけられるわけではない。各校の教育課程に「地域連携」の視点を入れ、教育課題や実情を考慮し、精査していくより有効活用が可能になる。
- ③ 小中連携という視点から、小学校で取り組んでいる活動を発展させて、中学校でも生かせるかどうかを考えることが必要。また、地域の連携によってどんな力を育てていくかの共通理解が大切である。

### 3 指導・助言

これからの学校は、地域との連携・協働し、社会に開かれた教育課程を編成することが求められる。その意味でも本実践はとても先駆的なものであり、教頭同士の連携にも有効である。

#### (1) 教頭会として大切な視点は3Cである。

- ① 継続性 (continuity) 問題解決型の研究
- ② 協働性 (collaboration) 協働的な研究
- ③ 関与性 (commitment) 成果や課題の反映

この3つに焦点を当てた実践的研究の積み上げにより、教頭会の組織県警強化にもつながる。

#### (2) 本研究を今後更に継続・発展させていくために、次の3点に留意することが大切である。

- ① 人材リスト取扱規定の作成の視点
  - ・人材リスト作成の目的
  - ・登録者に関すること
  - ・活用のための具体的な取決め

#### ② 各校での教頭の役割

中学校区、地域、校長、職員の4つの視点から、教頭は何をするのか教頭会で検討する。また、各校での成果や課題を教頭会にフィードバックさせることが大切である。

#### ③ 地域にとってのメリット

「学校にとってはありがたいが、地域にとってはどうなのか」を考えなくてはならない。互いの役割を認識しつつ、学校と地域は対等な立場の下で協働関係を築くとともに、地域にとっても成果が生まれるという視点をもつことが大切である。

キャリア教育の充実に向けた教頭の役割  
～「夢いっぱい、希望あれる胎内の子供」の育成に向けて～  
提言者：胎内市小中学校教頭会 胎内市立中条中学校 吉田 和則

1 提言の趣旨

胎内市では、「ふるさと教育」を推進しており、その中心的な取組が小学5年生の「ふるさと体験学習」と中学2年生の「職場体験学習」である。

課題は、キャリア教育と各教科や学校行事等に関連付けて小中9年間の系統性を明確にすることである。全校体制で組織的にキャリア教育を推進するため、教頭が果たす役割や活動内容を明確にし、より一層充実させるために本研究課題を設定した。

2 研究協議から

(1) 全体協議から

① キャリア教育推進上の課題

全校体制で組織的に推進することと、各教科や学校行事等に関連付けて小中9年間の系統性ある取組をすること。

② 課題解決のための取組

- ・1年次(H26年度)…「胎内市小中学校キャリア教育プラン」の作成
- ・2年次(H27年度)…各中学校区の実践発表と課題の整理、共有化
- ・3年次(H28年度)…課題解決に向けた実践の充実

③ 主な成果

- ・キャリア教育推進上の課題が明確になった。また、市小中教頭会で情報交換を行うことで、有効な改善策を見いだせた。
- ・全校体制による組織的なキャリア教育が進められてきた
- ・キャリアカウンセリングやキャリアプランニングの指導計画づくりが小中とも進められている。

④ 課題

- ・キャリア教育を組織的に行うための教職員の意識改革
- ・児童生徒による郷土アピール活動の発展や地域の活性化に繋がる活動の推進
- ・幼稚園・保育園から高等学校まで見据えたキャリア教育の推進

(2) グループ別協議から

① 教頭としての役割

・県の動向や要請の方向を注視し、自校の現状を踏まえた上で、全職員が向かうベクトルをそろえる。

・キャリア教育主任と取組を推進するとともに、学校と関係機関・地域事業所等をつなぎ、関係の強化を図る。

・キャリア担当者を育成する。

② 全校体制による取組の推進

- ・キャリア教育に対する職員の意識を高める必要がある。特に小学校は意識が低い傾向にあり、職員研修を設定してきちんと理解させることが大切である
- ・現在行っている教育活動とキャリア教育に関連付ける。また、活動にキャリア教育の視点を入れて意識付けを図る

3 指導助言

胎内市小中学校教頭会の課題は、全職員の意識改革とキャリア担当者への働き掛けである。ポイントは、運営面と内容面の両方をセットで考えていくことである。

(1) 内容について

① 教頭は、キャリア教育の「夢を描く」段階に焦点を当ててリーダーシップを発揮する。

② キャリアカウンセリングの充実では、「先生方が語る」「子供に語らせる」「子供に語り合わせる」の3つの視点で考えるさせる。

③ 「先生方が語る」「子供に語らせる」場合は、子供の好きなことに関連付けて語るのが有効で、その中にキャリア教育の視点を入れて語るとよい。

④ 「子供に語り合わせる」場面では、大人の異質な考えを入れることで、子供の考えを活性化させる。

(2) 運営について

① キャリアカウンセリングやキャリアプランニングを推進するためには、PDCAをきちんと行う。

② 何をどうすればよいのかを具体的に示し、日常的に行われるようにする。

## 地域とともに歩む学校づくりと教頭の役割

### ～小中連携を核とした地域連携の推進～

提言者:阿賀野市小・中学校教頭会

阿賀野市立京ヶ瀬中学校

渡邊 正人

#### 1 提言の趣旨

阿賀野市では、保護者や地域の人々と課題を共有し、連携・協力して学校づくりに取り組むことを教育の重点として掲げ、各学校が地域との連携強化を進めてきた。市教頭会は小中連携組織や地域連携の在り方を見直し、中学校区ごとに改善に向けた関与を高め、下記の3つの視点から小中連携を核とした地域連携の推進を試みた。

##### (1) 小中連携委員会の組織図の見直し

中学校区ごとに行っている。京ヶ瀬中学校区では、小中学校共同で連携シートを作成し、活用している。

##### (2) 特色ある実践の共有と教頭会の関わり

各校で、成果を上げている実践データをメールで一斉送信し、教頭全員で共有できるようにした。また他地区での参考になる実践データを収集し共有を図るために、HPや連携だよりで情報発信している。

##### (3) 特色ある教育活動推進に向けた働き掛け

笹神中学校区では、保護者や学区住民を巻き込んだあいさつ運動を実施している。教頭会で活動をコーディネートし、実現に向けたサポートを行っている。また「大人と子どもが一緒になった地域の活性化についての話し合い」「なかよしこどもサミット」などを行う中学校区もある。教頭は、連絡調整、周知、説明などを行っている。

市教頭会の共通の課題として共通認識をもって取り組めたことが成果である。9年間を見通して地域と関わり子どもを見守るためにはどうしたらよいか、教職員の参画意識をどう高めるかなどの課題が残った。

#### 2 研究協議

##### (1) 全体協議から

小中の役割分担は、明確に決まっていない

が、連絡を取り合い、コスモスの種取りを共同で行ったり小学校で作ったさわし柿を中学校で販売したりなど活動が広がっている。また、中学生のあいさつの良さや発表の態度など小学生の手本になった。

##### (2) グループ別協議から

- ① 村上岩船地区では、行政と連携した「郷育」という組織がある。コーディネーターを動かすのが教頭会の仕事である。
- ② 小中学校が一つずつだと連携しやすいが、複数では難しい。距離的な問題も含め、連携の問題点を解決する手立てを、校長の指導のもと、教頭会で共有する。
- ③ 活動の事前広報と紹介、子どもたちや地域の方の好意的な姿や声を受けて、地域全体に返していくことが大切である。

#### 3 指導助言

これからの時代を生き抜く力を子どもたちに身に付けさせるために、地域とともに歩む学校づくりを進めなければならない。どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働することが大切である。

##### (1) 教頭の役割

学校教育目標の具現に向かい、組織的に学校運営ができるよう、組織を動かし人を動かすことが教頭の大切な役割である。

##### (2) 阿賀野市教頭会の取組

市教頭会として共通認識をもち、地域や保護者の願いを幅広く受信していることはよい。受信した声をどう生かしていくか、活動の質の向上が求められる。

##### (3) これからは

学校の依頼だけでなく、中学校区で地域に貢献する活動を実施するなどの関係づくり、継続性、協働性、関与性に焦点を当てた研究を進めていくことが必要である。